日本行動計量学会会報
第49号
1990年3月27日
日本行動計量学会
運営委員会広報係
（〒106）東京都港区
南麻布4－6－7
統計数理研究所内

〈巻頭言〉

研究評価

野元菊雄

研究をどう客観的に評価するかは、大変むずかしいことです。基礎研究は一般に評価がむずかしいし、人文系の研究もまたむずかしいところです。

人文社会系などとよく言いますが、その中でも社会系については評価が可能な部分が多いように思います。例えば選挙予測などは、正解がすぐあとに出るのですから黒白ははっきりします。予測とある以上はこれからのことで、これからはすぐ現実のものに出てきます。経済や政治の予測もこの意味では評価はすぐ出てしまいます。つまり、予測が当たればその研究も評価されます。科学技術についても同様で、天気予報が当たったかどうかは次の日には点数となって出ます。

予測でないものの研究評価はむずかしいでしょう。その基礎研究の成果によってどんなものができ上がったか、というのも評価の一つの基準になる、と思います。

問題はそういう基準が立たない場合です。人文系基礎研究をしている国立国語研究所の場合、ではどうしたらいいでしょうか。

研究に投資する側は、どんな成果が具体的に得られたか、を当然知りたいと思うでしょう。そしてその評価に基づいてその後の研究題目を決定すべきだ、と考えるのももっともなことだと言わなければなりません。

こうした考え方から、総務庁はその行政監察の一環として、国立国語研究所を監察し、この点を指摘してきました。評価そのものがむずかしいから、と言ってやっていないのはけしからん、というわけです。

このような指摘を受けると、今の行政の仕組みではこれに従わざるを得ません。しかし、従うとしても、どのように具体的にするかで、なかなか答えを出すのがむずかしいところがありました。

国立民族学博物館の梅棹忠夫館長は、研究者の研究能力についてある報告を出しました。これは館所属の研究者が然るべき論文を何枚書いたかと、彼が館から得た総収入とを出して、原稿用紙一枚当たりの給料を計算したのです。

これは確かに評価を一つの客観的な数字で出したものと言えるでしょう。しかし、研究はすべて論文の枚数で計れるものでもないでしょう。梅棹氏も、俸給の半額は展示その他の活動のためとして除外しています。それでも原稿用紙一枚一万五千円ぐらいの人もいたと記憶します。それにしても研究評価は参加したプロジェクトへの貢献度など、枚数には、つまり論文にはならないものも入れないといけないでしょう。

こうして考えると、研究評価を客観的に出すことは非常にむずかしいのではないか、と思います。研究という行動をいかに計量するか、ということも、日本行動計量学会の取り上げるべき分野だ、と思います。

しかし、いろいろな異なる研究分野での評価がバラバラでは困ることもあるでしょう。学際的な分野では、いろいろな専門家の仕事を共通の指標で計る必要があります。どうも今のところ不可能なようです。人文社会系はむずかしかろう、と最初に書きました。けれどもそう言いますと、当学会の学会賞などはどうでしょうか。などと書くのは、他ならぬ学会賞の選考委員を勤めたこともあるわたしのことばとしては、いささか不穏当ということになりましょうか。

のもと・きくお
日本行動計量学会理事
国立国語研究所長

会議記録

○理事会
時・平成元年十月二日
所・統計数理研究所
出席者・理事ほか、計十一名
1. 第十八回大会は、東京女子大学で、平成二年九月十九日（水）～二十一日（金）に開催されることが決定した（大会実行委員長は杉山明子氏）。
2. かねてから検討を続けてきた、学会費長期滞納者をめぐる問題についての扱いを定めた。結果は別項（3ページ）参照。
3. 第五回学会賞選考委員の人選がなされた。
4. 各種委員会・事務局報告が行われた。

○理事会
時・平成二年一月二十二日
所・統計数理研究所
出席者・理事七名
1. 事務局より、学術情報センターから「学会発表予稿集電子ファイルデータベース」事業への参加の呼びかけがあった旨の報告があった。討議の結果、来年度の総会の場で態度を決定することとした。（3ページ参照）
2. 和文誌編集幹事長の古川理事の転勤に伴い、その後任に田栗正章氏（千葉大・理）を選出することが承認された。
3. 各種委員会・事務局報告が行われた。

○理事会
時・平成二年三月十二日
所・統計数理研究所
出席者・理事ほか、計十一名
1. 杉山実行委員長より、第十八回大会の準備状況についての報告があった。
2. 各種委員会・事務局報告が行われた。
3. 岩坪理事より、日本学術会議第十五期会員選出に係わる学術会議研究団体登録についての報告が行われ、本学会として登録を継続することとなった。

○運営委員会
時・平成二年三月六日
所・統計数理研究所
出席者・運営委員七名
1. 来年度に向けて、今後の運営活動について検討した。特に、行動計量シンポジウム（旧名・月例シンポジウム）開催については、種々の候補テーマに関して広く情報を集め、順次、積極的に具体化を進めることにした。
2. これまで「会報」編集を担当していた杉戸清樹委員に代わり、次号からは、杉山明子委員が担当することになった。それと同時に従来の縦書き形式を改め、横書きに替えることを決めた。

第50回記念月例シンポジウム
時・平成元年十一月十八日
所・統計数理研究所・講堂
テーマ・行動計量学の歩み
オーガナイザー・司会
水野欽司（統数研）
講演　肥田野直・柳井晴夫・林知己夫・高木廣文・上笹恒・柳原良造・江川清
参加者　四十八名

学会賞候補者の推薦を

現在、第五回学会賞受賞候補者を選出する準備を行っています。皆様の身近な会員の中に適当な候補者がありましたら、事務局まで文書でお伝え下さい。

【記載事項】
①推薦対象となる賞の名称（功績賞ないしは優秀賞）
②候補者の氏名・所属
③その候補者の業績の内容（論文の題目・誌名・巻号、著書その他の刊行物の名称・発行所・刊行年など）
④推薦者氏名・印

【様式】推薦候補者ごとにB五判一枚

【期限】平成二年四月二十一日

【送付先】〒一一五　東京都北区西が丘三の九の十四　国立国語研究所内　日本行動計量学会事務局・江川清

なお、学会賞の選考規定は昨年末発行の『会員名簿』79～80ページをご参照下さい。

第51回行動計量シンポジウム
（この回から改称された）
時・平成元年十二月二日
所・名古屋大学計算機センター
テーマ・データ解析の理解とコンピュータ利用
オーガナイザー・司会
村上　隆（名古屋大）
発表　市川伸一・中野純司・吉村功
参加者　三十四名

会員数（二・二・二二現在）
名誉会員　一名
正会員　一、〇二三名
準会員　六二名
賛助会員　二七社

「学会発表予稿集電子ファイル」データベースについて

学術情報センターでは、標記のデータベースを作成する計画を進めており、本学会その他に参加協力を呼びかけてきました。

学術情報センターの考えは、大略、以下のようです。

◆このデータベースは、①参加各学会の『大会発表予稿集』を画像情報として光ディスク等に入力して得られる電子ファイル、②発表論文の表題・発表者名・キーワード等の情報のコード入力による磁気ファイル、の二種類のファイルで構成する。

◆参加学会の会員は、②のファイルを学術情報センターのネットワークを通じて各端末機で検索し、必要な①の情報をファクシミリを介して入手するサービスを受けることができる。

◆学会が希望する場合は、作成データベースをMT（画像情報を除く）にて提供する。

◆データベース化の対象は原則として平成元年度分のものからとする。また、サービスは平成二年度から開始する。

◆著作権については、①予稿集は各学会に、②作成データベースは学会と学術情報センターの共有、とする。

◆サービスの許諾については、学会と学術情報センターとで覚書を取り交す。

◆データベース作成に係わる経費は学術情報センターが負担する。

◆学会は、大会の予稿集の提供、および大会データシートの作成・提供を行う。ただし、これらに伴う経費は学術情報センターから学会に支払うものとする。

◇　◇

以上の要件について、本年一月の理事会で検討した結果、差し当たり次のように処理することとなった。

すなわち、事務局では、このデータベースへの参加の方向で準備を進めておく。ただし、本学会の規約には大会発表者の著作権についての規定が定まっていないので、第十八回大会の総会の席で会員各位の意見を尋ねた上で、最終的な意思決定を行うこととした。

次期総会で討議される際には活発な意見交換を期待しています。（事務局）

学会費長期滞納者に対する扱いについて

◆繰り返し申し上げてきたことですが、学会誌および会報の編集・刊行・発送、あるいはシンポジウムの開催など、学会の根幹をなす諸活動は、もっぱら会員各位による会費で支えられています。大多数の会員の方々には、この旨をご理解いただき会費を納入いただいており感謝いたしております。

しかし一方、残念ながら、年度会費を長期にわたって滞納されている方々もおられます。

こうした会費滞納の会員へも、学会誌の郵送をはじめ、学会活動のあらゆる面で、学会はかなりの経費を費やしております。その経費は言うまでもなく、会費をきちんと納められた会員の負担によっているわけで、はなはだ不都合な事態であります。

そこで、理事会としてはこの問題への対処の仕方を、他学会の状況をも参考にしながら、検討してきました。そして、平成元年十月の理事会で、以下のような申し合わせを行いました。

◆理事会申し合わせ事項

①二年以上にわたって会費を滞納した会員には学会誌その他の発送を停止し、年二～三回会費の督促状のみを発送する。

②上記該当者が会費を納入した時点で、学会誌等の発送を再開する。

③四年以上会費を納入しなかった者は、理事会の決を経て除名処分を行う。

④この申し合わせは、平成二年四月末日より実施する。

◆事務局よりのお願い

以上のようなことを申し上げざるを得ないことを、非常に心苦しく思っています。しかし、会員諸氏のご協力なくしては、健全な学会活動を続けていくことは不可能です。よろしくご協力下さるようお願いいたします。

なお、滞納期間等については、今後の納入状況をみながら、しかるべき時期に再検討することとしております。

ちなみに、住所不明等によって長期滞納となったケースが多々見られます。住所および所属の変更があった場合は、日本学会事務センターまでご通知下さるようお願いします。

★関連する学会・研究会の動き

○日本応用数理学会の発足

趣旨・数理的な考え方、技術を駆使している研究者・技術者、またそうした思考・方法そのものの研究や教育に携わる人達の横断的な学術交流の場を目指す。

発足・平成二年四月

入会手続き・日本学会事務センター「日本応用数理学会」担当へ入会希望を申し出、所定用紙を請求する。

〒113 文京区弥生2－4－16

年会費・九〇〇〇円

入会金・二〇〇〇円（ただし日本行動計量学会員は入会金免除。）

○第9回シミュレーション・テクノロジー・コンファレンス

日時・平成二年六月二〇～二一日

場所・明治大学（東京お茶の水）

研究発表分野

シミュレーション言語と技法、システムのモデル化とその検証、シミュレータとハードウェア、リアルタイムシミュレーション、知識工学とシミュレーション等。

問合せ先

〒151 渋谷区千駄ケ谷5－10－11

日本科学技術連盟内　日本シミュレーション学会事務局

○日本ファジィ学会講習会

ファジィ制御法――理論と実際

日時・平成二年七月九～十日

場所・東京工業大学・百年記念館

講師・菅野道夫（東京工大）

村上周太（九州工大）

前田幹夫（九州工大）

会費・五万円（日本行動計量学会協賛につき割引）

申込・〒214 川崎市多摩区東三田1

明治大学理工学部情報科学科

向殿政男氏あて

○日本ファジィ学会講習会

ファジィOR

日時・平年二年七月十三日

場所・なにわ会館（大阪市天王寺区石ケ辻町19－12）

講師・乾口雅弘（大府大）・石井博昭（阪大）・和多田淳三（龍大）・中森義輝（甲南大）

会費・一万円（協賛割引額）

申込・ハガキに氏名・連絡先・電話等を記入し六月二三日までに

〒591 堺市もず梅町4－804　大阪府立大工学部経営工学科あて

○ファジィ論理と神経ネットワークに関する国際会議

主催・ファジィシステム研究所㈱

国際ファジィシステム学会、日本神経回路学会・他

日時・平成二年七月二〇～二四日

場所・九州工業大学情報工学部（福岡県飯塚市川津）

目的・完備されていない情報の処理に適するファジィ論理と神経ネットワークの接点を探り、新しい情報処理システムの動向を探ろうとする。

会費・講習会・七万円

講演・会員三万円、一般四万円

申込　〒820　飯塚市川津680の4　九州工業大学情報工学部　山川烈氏まで資料請求のこと。

○第22回国際応用心理学会

日時・平成二年七月二二～二七日

場所・京都国際会館（京都市）

企画・招待講演（35件）・シンポジウム（120件）・ワークショップ（10件）・ポスター発表（700件）など（数字は予定の概数）

参加費　九〇年四月末まで五万五千円。五月以降、六万円。

連絡先　〒565 大阪府吹田市吹田千里郵便局私書箱38号　第22回国際応用心理学会議事務局

和文誌『行動計量学』への投稿あて先は、新幹事長の〒260千葉市弥生町一の三十三千葉大学理学部　田栗正章氏あてにお願いします。

会報が横書きになります

会報は第五十号を記念して、縦書きから横書きへ変更し、紙面を一新します。

1ページ上部の「行動計量学会報」の題字は、林知己夫先生にお願いして墨で書いて頂きました。

また、編集はDTP（デスク・トップ・パブリッシング）で現代風に行なう予定です。図やカットも入れて、読みやすい、楽しい紙面作りをしたいと思っています。

このように体裁は変えますが、会報の中身は会員への連絡、各委員会の報告、会員のエッセイなど今までの編集方針を踏襲します。会員相互の情報交換や連絡などに積極的にご利用下さい。

次の第五十号から、私が編集を担当しますが、何分高校の新聞部以来のことで、どぎまぎしています。前任者の杉戸清樹さんにご指導頂いて、何かと大任を果たしたいと思います。

皆様のご協力をお願いします。

ご連絡・ご投稿は左記まで。

〒181　三鷹市牟礼4の3の1

東京女子大学現代文化学部内

杉山明子（東京女子大学教授）